

(具体的な取組例)

- ・ 気鋭の劇作家に新作戯曲の書き下ろしを委嘱し、また作品性に相応しい演出家を起用することで、新しい表現の創造を目指します。(実績：令和4、6年度「ライカムで待っとく」ほか)
- ・ 近代以降の日本の戯曲や映画を題材に、日本語による演劇の再発見、日本の文化的なアイデンティティを意識した創造を行い、豊かな演劇世界の可能性を観客と分かち合います。(実績：令和3年度「近松心中物語」ほか)
- ・ 海外戯曲への取組においては、翻訳家との共同作業を通じて、より豊かな日本語による翻訳戯曲の上演に取り組みます。(実績：令和3年度「ラビット・ホール」ほか)
- ・ ミュージカル等の高い娯楽性を備えた作品の創造を行い、ダイナミックな演劇空間を造形して、舞台芸術の魅力を届けます。(実績：令和5年度「ジャズ大名」ほか)
- ・ 海外のアーティストや団体との国際共同制作を行います。国際共同制作は、それに関わるデザイナーや実演家、舞台技術者にとって、視野を広げ経験を得る貴重な機会ともなります。(実績：令和6年度「品川猿の告白」ほか)
- ・ 若手の演出家、劇作家、デザイナーや実演家らを積極的に起用し、新たな表現・芸術の創出と、作り手の成長への貢献を目指します。(実績：令和6年度「愛と正義」ほか)
- ・ ダンスをはじめとする身体表現の可能性を広げ、その魅力を県民に伝える企画を実施します。(実績：令和6年度「まだここ通ってない」ほか)

② 再創作(リ・クリエーション)による再演

これまで創作上演した作品は将来に残すべき県民・劇場の財産と捉え、ブラッシュアップ、あるいは新たな切り口でのリ・クリエーションを行い、新たな価値を付加しながら上演していきます。

(具体的な取組例)

- ・ 「星の王子さま -サン=テグジュペリからの手紙-」(初演：令和2年度、再演：令和4年度)
- ・ 「外地の三人姉妹」(初演：令和2年度、再演：令和5年度)

③ KAAT EXHIBITION

気鋭の現代美術作家とともに創作を行い、劇場空間や舞台技術設備を活用し展開する現代美術展として、継続して取り組む企画です。「ホワイトキューブ」(美術館の展示室等)で活動しているアーティストに劇場空間「ブラックボックス」を提供し、革新的な表現を実現していきます。また、演劇・ダンス・音楽などのパフォーマンスも交え、体験的な展覧会を実施します。

○感動を分かち合う

舞台に触れる機会の少ない方々にも参加しやすく、鑑賞や創造を体験できる機会の提供、その増進に取り組めます。また、多様な価値観や表現を県民に広く紹介する機会を創出します。

① KAATキッズプログラム

子ども・若者に向け、開館以来継続して実施してきたキッズプログラムは、今後も引き続き実施していきます。プレシーズン、特に夏休みの時期を中心に、集中的に開催します。多くの気づきを得る大切な学びの場として、良質な鑑賞機会を提供し、また舞台芸術に関する興味・関心を引き出します。企画立案に際しては、作品ごとに対象年齢を明確にすることで、より細かなニーズに応えていきます。また、地域ごとに鑑賞機会の多寡が生じやすい子ども向け作品では、積極的に県域の巡回公演を立案・実施します。

② アトリウムの活用

ひらかれた劇場を目指し、第4期指定管理期間も多様な取組を行ってきましたが、第5期もその経験を活かしながら、引き続き外構に面し道行く人からも見えるアトリウムを活用した特色ある事業を展開します。

（具体的な取組例）

- ・特設劇場を設置し、演劇・ダンス公演を実施（実績：令和3年度「王将三部作」ほか）
- ・美術展示とダンスなどのパフォーマンスを複合的に実施（実績：令和4年度KAAT EXHIBITIONほか）
- ・街の一部である劇場、街に飛び出す劇場を目指し、ダンス・音楽・トークイベント・マルシェなど、多様な無料イベントを開催（実績：「フレンドシッププログラム」）

③ KAATカナガワ・ツアー・プロジェクト

より広く多くの県民に、上質な観劇体験を届けるために、長塚芸術監督自らが中心となり、芸術劇場で創作した作品を携え神奈川県内各地を巡演するプロジェクトです。これまで隔年で継続的に実施してきましたが、第5期においても、地域での関連イベント、トークショーなど県民との対話の試みをまじえながら、引き続き実施します。舞台芸術の魅力を県民に感じていただくこと、また、県内各市町村の文化施設が芸術劇場をハブとして連携し、より緊密なネットワークを築くきっかけとなることを目指します。

④ 海外からの招聘公演

同時代的な優れたダンスなどの作品を海外から招聘し、県民に多彩な鑑賞機会を提供します。

⑤ 県民参加、地域との連携による企画の立案・開催

県民の方々が出演やものづくりに参加できる機会を創出します。また、元町や中華街などの近隣地域との連携を事業に活かし、地域との一体感を持った企画を立案していきます。

（具体的な取組例）

- ・県民が民衆役で出演（令和5年度「ジャズ大名」）
- ・県在住・在勤の外国人が出演（令和3年度「虹む街」、令和5年度「虹む街の果て」）
- ・元町SS会の協力で、舞台上に屋台出店（令和6年度「花と龍」）

⑥ バックステージツアーの定期的な開催

第4期指定管理期間から取り組み、大変好評を得ている定期開催バックステージツアーを引き続き実施

し、劇場や舞台芸術に親しんでいただく機会を提供します。また、年に1回程度手話通訳付きの回を設定し、聴覚に障害のある方にも、劇場を知り親しんでいただく機会を作ります。

⑦ 提携事業の推進

県民に多様な鑑賞体験を提供するために、実績のある芸術団体と提携し、上質な作品の上演を行います。

⑧ 鑑賞サポートの取組

社会連携ポータル部門と協働し、鑑賞サポートの充実を図ります。字幕タブレットやヒアリンググループ、台本貸し出しによる聴覚障害者へのサポート、音声ガイドや触覚模型による視覚障害者へのサポート、またリラクスパフォーマンス／やさしい鑑賞回を、可能な限り拡充していきます。

⑨ チケット販売における取組

劇場をひらき、より多くの県民にご来場いただくための取組として、神奈川県在住・在勤の皆様を対象にした「神奈川県民割引」、またU24チケット(24歳以下)、高校生以下割引、シルバー割引といった各種割引を引き続き実施します。

そして、メインシーズンのラインアップをより楽しんでいただくため、また少しでも気軽に劇場に足を運んでいただける目的で企画してきた、複数演目を鑑賞できる「シーズンチケット」「メインシーズンパスポート」といった新サービスに、今後も取り組んでいきます。

〇つねに考える

劇場が常に考える場、豊かな発想を生み出す場として価値を生み出せるよう、プログラムを策定し、事業に取り組めます。

① シーズン制によるプログラム策定と運営

前述のように、第4期指定管理期間に引き続き、劇場の運営にリズムを持ち、新たな発想・行動を喚起する枠組みとして、4月～9月を「プレシーズン」、10月～3月を「メインシーズン」とするシーズン制を実施します。

② 「カイハツ」プロジェクト

劇場が常に考える場、豊かな発想を生み出す場となることを目指し、令和3年度、長塚芸術監督の就任以来、継続して取り組んでいる事業です。公募により選定するアーティストにアイデアの種を試し育てる機会を提供し、劇場が新しい才能と出会うきっかけとする<企画・人材カイハツ>、時にリーディング試演を交えながら、国内外の戯曲発掘および情報収集、海外戯曲の翻訳等を行う<戯曲カイハツ>、時間をかけて作品をクリエイションしていく新しい創造形態を模索する<創作プロセスカイハツ>の3つの取組を行います。<創作プロセスカイハツ>から始まり複数年のクリエイションを経て本公演に至り、大きな反響を呼び高い上演成果を得た作品もあり、劇場の未来を拓く事業として、第5期も鋭意取り組んでいきます。

③ 横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）

国内唯一かつアジアで最も影響力のある舞台芸術プラットフォームとして国際的に認知されている催事であり、芸術劇場は、開館以来主催者である実行委員会の一角を担い、公演プログラムの主会場として、多様な作品の上演を行っています。県民に、アジアを中心とした世界のアーティストによる同時代的な作品を鑑賞できる機会を提供し、また舞台芸術関係者には国際交流の場を提供することで、「考える」機会を創出します。また、近隣地域との連携により、公募によるYPAMフリンジを実施します。

○未来につなぐ

これからの芸術文化を支える専門人材の育成と、未来に繋がる新しい視野を拓いていくことを目指します。

① 多様な枠組による事業、関係性の構築

国内外の劇場や芸術団体との多様な協働の枠組を模索します。作品の共同制作だけでなく、人材交流や情報の共有による連携も行うことにより、新たな創造の可能性を見だし、未来の事業に繋がります。

② 古典芸能への取組

歌舞伎や能などの古典芸能、地域に根ざす伝統的な芸能を、未来に繋ぐために、現代的な視点でとらえ、創作や人材育成に活かすことに取り組めます。

（具体的な取組例）

「つたえつなぐ」・・・国立劇場と協働し、伝承されてきた日本の古典芸能を、現代演劇やコンテンポラリーダンスに繋がる舞台芸術として、愛好者だけでなく、古典芸能をこれまで観たことがない観客、また演劇やダンスのアーティストらに、その魅力や表現力を紹介し、伝統芸能の継承や普及に繋げていく企画

③ 舞台技術講座

舞台芸術は様々な役割を持った多くの人々が協働することで成り立ちます。創作や上演を安全により良いものとするために舞台技術者、制作者等、劇場や上演に関わるスタッフが適切な知識・技能を持つための講座を、社会連携ポータル部門との協働により、毎年開催します。芸術劇場が持つ固有の資源（舞台技術・制作スタッフや設備・機材）を活用し、さまざまな課題テーマを設定し、外部講師等も招き、企画します。

（近年の開催事例）

「高所作業における安全対策～落下を防ぐ～」

「舞台演出における無線制御と関連法令～『技適』って何？」

④ グリーンシアター・ワークショップ

環境に配慮し持続可能な舞台芸術を考えていく場として、社会連携ポータル部門との協働により、グリーンシアターに関する講座を継続的に開催します。海外の舞台芸術界での先進的な事例の紹介や、専門家によるレクチャー等により、知見を新たにし、実践に活かしていきます。

⑤ インターンシップ

現場での体験を通して、公立文化施設のあり方や、事業制作・劇場運営、または舞台技術の基本的な業務について実践的に学ぶ場を提供するプログラムです。開館以来、継続して実施しており、劇場・音楽堂等や関係機関に就職する若者を輩出し、専門人材の育成と興味・関心の醸成に大きく貢献しています。今後も、劇場運営と舞台技術の2コースで開催します。社会連携ポータル部門との協働により、毎年開催します。

⑥ 神奈川総合高校舞台芸術科への教育プログラムの提供

芸術劇場の施設を活用し、舞台技術に関する特別授業を実施します。芸術劇場に常駐する舞台技術者らが講師として参加します。社会連携ポータル部門との協働により、毎年開催します。

音楽堂

神奈川県立音楽堂は昭和29（1954）年の開館から、70年に渡り県民とともに神奈川県文化発展に貢献してきました。日本のモダニズム建築を代表する前川國男設計による優れた建築空間、特に室内楽に適した音響特性を活かし、これまで国内外の数多くの優れたアーティストの演奏会が行われてきました。また、令和3年には隣接する神奈川県立図書館・前川國男館とともに神奈川県重要文化財に指定され、横浜・紅葉ヶ丘文化ゾーンの一角を担う貴重な建造物としてその建築的な価値が認められています。このような背景のもと、神奈川県立音楽堂は引き続き、歴史的価値、空間価値を活かし、沼野雄司芸術参与の監修を受けながら、事業を展開します。

また、地域に向けてホールをひらき、県民とともに歩んでいく事業展開、地域の教育現場・子ども・若者たちに向けたアプローチ、横浜・紅葉ヶ丘文化ゾーンに位置する文化施設との連携等を、県域展開事業と協働して進めます。

一方、物価上昇や人的コストの上昇等による財政状況の逼迫を踏まえながら、収支バランスの取れた持続可能な事業計画・展開を行います。また、神奈川県重要文化財としての保全と、県民のための施設の活用の両立について、施設管理者として神奈川県とともに考え、日本初の公立音楽専用ホールとしてその存在を未来に繋いでいきます。

○創造に挑む

音楽堂の持つ資源（人的リソース、舞台設備など）を最大限活用し、音楽ホールの特性を活かした企画を実施します。

① 音楽堂室内オペラ・プロジェクト

音楽堂主催事業のフラッグシップと位置づけ、国内外の優れた演奏家や演奏団体との協働により、開館75周年におけるオペラ公演実施を目指します。早期から企画、資金調達、出演者の交渉等調整を行い、またレクチャーイベントや演奏会を実施することで機運の醸成を図ると共に、舞台芸術の普及振興に繋がります。

② シリーズ「新しい視点」

音楽堂がこれまで取り組んできた、時代を先取りする先進的プログラムを継続して実施します。故・一柳名誉芸術総監督のリーダーシップのもとに培われた現代的視点や、モダニズム建築空間を活かした演奏会、他ジャンルとのコラボレーションなど、新たな化学反応を狙う意欲的な作品を創造します。

(過去の実績例)

- ・「ダブルポートレイト・フォー・マリンバ・アンド・ザ・フューチャー」
アレハレドロ・ヴィニャオ&一柳慧 (令和4年度)
- ・「庄司紗矢香 音楽と言葉 未来への回帰」(令和5年度)

○感動を分かち合う

県民に音楽を聴く楽しみを提供し続けるホールであり続けます。また、収益性も考慮し、継続的に良質な演奏会を実施できるよう努めます。

① 室内楽コンサート

国内外から優れた演奏家、演奏団体を招き、音楽堂の音響を生かした室内楽公演を開催します。

(過去の実績例)

- ・音楽堂ヘリテージコンサート・シリーズ(令和3年度より実施)
- ・音楽堂ヴィルトーゾ・シリーズ(平成23年度より実施)

② 共催コンサート

神奈川フィルハーモニー管弦楽団との共催によるオーケストラ公演や、地元プロモーター、プロフェッショナル団体等とタッグを組んだ国内の一流アーティストによる室内楽コンサートを開催します。

(過去の実績例)

- ・音楽堂ホリデーアフタヌーンコンサート(令和5年度より実施)
- ・神奈川フィルハーモニー管弦楽団 音楽堂シリーズ(平成23年度より実施)

○つねに考える

県民に音楽をより身近に感じていただく活動や、県民参加支援を通じ、音楽堂があるべき姿を考えていきます。

① 企画公募プログラム「紅葉坂プロジェクト」

新しい芸術創造活動の発掘を行い、アーティストの育成を図るほか、アーティストとの交流により、観客の舞台芸術への参加意欲の拡大を図ります。

② 横浜・紅葉ヶ丘5館連携事業「紅葉ヶ丘まいらん」

横浜・紅葉ヶ丘に位置する神奈川県立青少年センター、神奈川県立図書館、神奈川県立音楽堂、横浜市民ギャラリー、横浜能楽堂と連携し、文化を通じた地域活性化に貢献する事業展開を行います。

③ 共催事業

地域で継続して活動する県域の文化団体を支援し、地域の方々の生きがいとなり、地域振興に貢献する事業を行います。

④ 建築見学会

幅広い来場者層をターゲットとした建築見学会を開催するほか、神奈川県重要文化財である音楽堂の歴史的価値を再発見し、その未来を考える企画を行います。

○未来につなぐ

開館 70 年を経た日本初の公立音楽専用ホールとしての歴史的価値・意義を再発見し、それを未来に繋ぐ活動を行います。

① 音楽堂クリスマスコンサート「メサイア」

次期指定管理期間中に 60 回目の開催を迎える音楽堂クリスマスコンサート「メサイア」を、引き続き開催します。神奈川県内の高校生で構成される「メサイア」未来プロジェクト合唱団も参加し、芸術文化による世代を超えた交流を実現します。

② 子ども・若者へのアプローチ

主催事業における「高校生以下無料」枠を継続して設定し周知を図り、子ども・若者の鑑賞拡大に努めます。また、特に子どもたちをメインターゲットとする施設開放事業の実施や、神奈川フィルハーモニー管弦楽団とタイアップし、本公演前の若年層向け公開リハーサルを継続開催し、将来の顧客層獲得を目指します。

③ 多文化共生プログラム

第4期指定管理期間では、子どもを主な対象とした企画「子どものための音楽堂 せかいはいともだち！」において、神奈川県在住の外国にルーツを持つ人たちが母国で親しんできた世界のさまざまな国の音楽や踊りを紹介する催しを行いました。引き続き社会連携ポータル部門と協働し、多文化共生をテーマとした企画に取り組みます。

④ アウトリーチ企画

第4期指定管理期間では「先生のためのアウトリーチ」と題して、音楽の触れ合い方、楽しみ方、楽しさの伝え方等を学校の教員に紹介し、学校の授業への活用を考えるきっかけづくりの取組を行いました。この取組を継続しつつ、子どもたちが音楽に触れあう喜びの本質に触れるアウトリーチ企画を社会連携ポータル部門と協働し、学校教育だけでなく、社会教育の分野との連携も視野に入れて、広く県域で展開することを検討します。

⑤ インターンシップ

社会連携ポータル部門と協働し、学生・各地の公共ホール職員等を対象として、事業制作および劇場運営について実践的に学び、考える場を提供するインターンシップを開催し、専門人材の育成や業界へ優秀な人材を輩出する機会とします。

⑥ アーカイブの整備

令和6年度に実施した音楽堂開館70周年企画の中で、これまでの公演のポスターの展示を行うなど、開館以来の活動を振り返る機会を持ったことを契機に、残されている資料や記録を整理し後世に引き継ぐアーカイブとして整備する取組を検討します。

県域展開事業部門

昭和50（1975）年の開館当初から今に至るまで、国内有数の大型文化施設・多目的ホールとして神奈川県民の芸術文化振興を担ってきた県民ホールは、令和7年3月31日をもって休館しました。県民ホールの再整備に向けて、具体的な議論が始まる中、今後も県民ホールの事業制作のレガシーを継承し、財団の理念とミッションを軸に据えた事業を、神奈川県全域の文化施設や地域コミュニティの中核となる公共スペース・イベントスペース等で展開していきます。県民ホール休館に伴う県民の芸術文化活動や鑑賞機会の減少を補い、地域の文化資源の活用や文化振興の環境整備の取組を充実させ、県域全体を大きな活動場所と見立てた活動を行います。そして県民ホール活動中と同様の芸術文化の波及効果を県域にもたらす活動を続けます。

また、地域特性を鑑み、年齢や障害の有無、居住エリアによる文化格差を取り払い、神奈川県下33市町村すべての方々が等しく芸術文化に触れ合うことのできる機会の提供を目指します。それぞれの地域が主体的に実施している事業に参画し、成果の向上を図る働きかけも積極的に行います。また、こうした活動を通じて県内各地の芸術文化事業展開をつぶさに汲み取り、新しい県民ホールの施設や運営の在り方検討に活かしていくことも重視していきます。

上記を達成するためのブランディングの構築にも取り組みます。神奈川県民の県民ホール再整備への期待を高め、常に芸術文化が身近な存在として受け止めてもらえる展開を行います。県民とプロフェッショナルのアーティストを繋ぎ、地域とともに創造し、波及効果をもたらす活動、新しい神奈川県民ホールを見据え、その中核を担う人材育成にも取り組みます。さらに、県民と繋がるアーティストの発掘、育成を進め、県域への芸術文化波及を促進します。

○創造に挑む

県民ホールの長い歴史において蓄積された制作ノウハウを活用し、神奈川県全域において地域の行政や芸術団体と協働し、作品を創造していきます。

① オペラ制作事業

これまで県民ホール事業の柱として、数多くの作品を制作し、ノウハウを蓄積してきたオペラ公演を、県域でも展開します。地域の文化施設や芸術団体との協働により様々な知見を共有し、オペラの新制作を行い、またレクチャーコンサートやワークショップ等の事業も併せて展開し、オペラの普及活動に努めます。

オペラ制作事業を通じた若手アーティストの発掘・育成もすすめていきます。

② C×（シー・バイ）シリーズ

これまでの県民ホールで継続して実施してきた、音楽の新たな価値を見つけるC×（シー・バイ）シリーズ（「C」はComposer、Classic、Contemporaryを意味する）の音楽事業制作知識を継承し、県域展開では市町村等のニーズを調査し、協働可能な事業展開を行います。また、ジャズやロック等これまで以上に幅広い様々なジャンルのアーティストとコラボレーションを行うことで、幅広い観客に訴求し、音楽活動の可能性を追求する企画とします。

③ 現代美術展

地域特性や環境等をリサーチし、その地域ならではの現代美術展を開催します。事前調査にあたっては地元行政機関等と協力し、また会場選定においては、使用されていない空き店舗や廃校となった学校等の遊休施設を活用することも検討し、地域課題の解決にも貢献します。

○感動を分かち合う

県民ホール休館中に、県域の様々なエリアの地域ニーズを研究し、芸術文化を体験し感動を得る機会を提供するため、県域33市町村の全てで鑑賞事業や普及事業を展開・実施します。

① 国内外のアーティストによる実演

県民に芸術文化に親しんでいただけるきっかけとなる様々なジャンルの舞台芸術を、国内外の神奈川県ゆかりのアーティスト等を起用し県内各地で展開します。「生の舞台」の持つ力を伝え、地域の活性化・にぎわいの創出に繋げ、さらに新しい県民ホールへの期待感を醸成していきます。

② 神奈川フィルハーモニー管弦楽団との協働事業

神奈川県内唯一のプロフェッショナルオーケストラとして活動する神奈川フィルハーモニー管弦楽団の演奏会を県内各地で行います。財団が地域と繋ぐことで、開催地域とともにプログラムを選定し、地域に求められる音楽公演の普及に努めていきます。